

母親と子どものモバイル端末使用と 母親のインターネット依存傾向 —子育てストレスとアタッチメントとの関連—

野口 三奈生^{1) 2)}・山口 一³⁾

¹⁾ 世田谷区千歳烏山総合支所健康づくり課

²⁾ 桜美林大学大学院心理学研究科

³⁾ 桜美林大学

Mobile Device Usage in Mother and Child and Internet Dependency of Mother
:In Relation to Parenting Stress and Attachment

NOGUCHI Minao¹⁾²⁾, YAMAGUCHI Hajime³⁾

¹⁾ Setagaya-ku Chitose Karasuyama General Branch Health Promotion Section

²⁾ Graduate School of Psychology, J. F. Oberlin University

³⁾ J. F. Oberlin University

抄録

本研究の目的は、育児ストレスやアタッチメントという育児に関連した要因に、モバイル端末使用状況やインターネット依存傾向が関連しているのかを明らかにすることである。調査は、関東地方のA保健所の3歳児健診対象児の母親に対し、質問紙法により実施した。質問紙は、対象者に関する質問項目(3歳児健診対象児との関係、年齢、子どもとの接触時間、兄弟数、就園状況、母親の就労状況、子育てのサポート)、母子それぞれのモバイル端末使用時間、インターネット依存度テスト(Young, 1998)を母親向けに1項目削除したもの、産褥期母親愛着尺度(Nagata et al, 2000)、育児ストレス尺度(吉永・眞鍋・瀬戸・上野, 2006)とした。結果、質問紙は205名に配布し104名から回答が得られた(回収率50.7%)。母親からの回答100名(有効回答率96.1%)を分析対象とした。

相関分析の結果から、育児ストレス尺度の「子育て困難感」($r=.333$)、「サポート不足」($r=.249$)、「育児知識と技術不足」($r=.285$)、「育児による拘束」($r=.264$)の4因子全てがインターネット依存得点と有意な弱い正の相関があり、インターネット依存傾向に育児ストレスが関連しているということが示唆された。更に、共分散構造分析による因果モデルを検討した結果、「育児知識と技術

不足」と「サポート不足」が「子育て困難感」を高め、「子育て困難感」と「育児知識と技術不足」が、産褥期母親愛着尺度の「子どもへの不安」を高め、「子育て困難感」が産褥期母親愛着尺度の「子どもへの関心」を減少させ、「インターネット依存得点」を高めているというパス図の適合度が良く、「育児知識と技術不足」、「サポート不足」に由来する「子育て困難感」が母親のアタッチメント不足の増大やインターネット依存傾向の高まりを導いている可能性が示唆された。このため、子育て困難感解消のために育児知識や技術を教えることやサポートを増やすことが有効と考えられ、このような試みが、母子間の適切なアタッチメントの形成の促進や母親のインターネット依存の予防につながると考えられた。

キーワード：アタッチメント，育児ストレス，スマートフォン使用

1. 問題と目的

近年の核家族化や育児サポートが少ない中での子育ては、育児ストレスが増している可能性が否めない。また、社会状況の変化も子育てに影響を与えていると考えられる。数井(2005)が、「自分の子を持つまで、赤ん坊とほとんど触れ合ったことのない男女が多い中、育児困難、育児不安という育児にまつわる諸問題が議論されている」と述べているなど、子どもと密接に関わる母親にとって、子育ての不安は大きい。佐藤・菅原・戸田・嶋・北村(1994)は、Lazarusらの心理学的ストレスの概念を用いて育児ストレスを、「子どもや育児に関する出来事や状況などが母親によって脅威であると知覚されることや、その結果、母親が経験する困難な状態」と定義している。更に、奥村・松尾(2011)は、「母親が育児生活の中である出来事をストレスと認知し、それに対して行動を取ろうとした結果、ストレス反応が引き起こされるという一連の過程」を育児ストレスと述べている。このような母親の育児ストレスは、母親の心身に影響を及ぼすといわれる(佐藤ら, 1994)。

Bowlby(1969)のアタッチメント理論では、親が子どもを受容する態度や、子どもの欲求に対しどの程度敏感に応答するかという親の養育態度などから、子どもの愛着が規定されると述べられている。先行研究においても、「子どもの泣きやぐずりに母親が適切に反応し欲求に応えることができないとアタッチメント不全システムが生じる可能性がある」(鈴木・大河原・殿川・藤岡・響, 2011)とされる。また、主なアタッチメント対象者である母親が一貫した応答性を示さないときには、次善の方略として、「アタッチメント行動の表出レベルや認知過程を操作する防衛が働くようになる」(Main & Solomon, 1990)。その結果、「成長後、ストレスが高い状況下において、不安や苦痛を緩和するために、他者との関係性や環境を有効に利用することができず、さらに不安や苦痛を増大させるということが考えられる」(Carlson & Sroufe, 1995)。こうした「心的弾力性のなさが、さまざまな不適応につながると考えられている」(北川, 2005)。このように、親の養育態度な

どに由来する子どもの愛着不全は子どもの将来に大きな影響を与える可能性がある。

一方、近年の社会変化としてスマートフォンに代表されるモバイル端末の普及がある。ベネッセ (2018) の調査によると、乳幼児の母親のスマートフォンの使用率は、2013年の60.5%から2017年には92.4%と4年間で31.9%増加している。タブレット端末の普及も2013年の29.3%から2017年は38.4%に増加している。子育ては、時代背景を含め生活環境の変化に影響されやすいと考えられるが、保護者の関わりの方でも、「親が家事で手をはなせないとき」にスマートフォンを使用させる割合は、2013年は7.7%であったが2017年では15.2%となっている (ベネッセ教育研究所, 2018)。電通メディアイノベーションラボと東京大学大学院情報学環の橋元研究室との共同研究 (2018) によると、0歳児の23.0%、3歳児の35.5%がスマートフォンに接触している。また、同調査では、家事など親が手を離せないときにTVやVTR視聴に使われていた時間が、スマートフォンの利用時間に代わる傾向も示唆している。このことは、日常生活において母子ともにインターネットを介してメディアに触れる機会が増え、育児の際もスマートフォンを利用していることを示している。このような状況の中、日本小児科医会 (2013) では、「スマホに子守りをさせないで」というパンフレットやリーフレットを作り啓発活動を行っており、乳幼児がメディアに過度に触れることで成長に影響しないか危惧している。また、スマートフォンなどのモバイル端末は、インターネットを介在しているためゲームなどと同様に「依存性」、「中毒性」が強いとされ (諸富, 2016)、中高生などの思春期、青年期と同様に乳幼児の子どもを持つ母親でも問題である可能性がある。総務省の平成26年版総務省情報通信白書 (2014) によると、全年代で8.2%、10～20代は13.1%、30～40代は6.0%がネット依存傾向にあるといわれている。

以上のようにモバイル端末が普及している中、育児に関してもモバイル端末の使用やインターネット依存の影響が危惧されているが、実証的研究は少ないのが現状である。

本研究の目的は、育児ストレスや母子のアタッチメントという母子の心身の健康に影響すると考えられる育児に関連した要因に、現在の社会状況の変化の一つとして考えられるモバイル端末使用状況やインターネット依存傾向が関連しているのかを明らかにすることである。

2. 対象と方法

2-1. 調査期間

2018年2月～3月に調査を行なった。

2-2. 調査対象

本研究ではスマートフォンなどモバイル端末の接触時間をある程度経験している可能性が高く、アタッチメントの第4段階である3歳児を持つ母親に質問紙調査を行うこととした。そこで、本研究の調査実施を承諾した関東地方A保健所の3歳児健診対象児の母親205名に対して調査を実施した。

2-3. 調査方法

関東地方のA保健所の3歳児健診対象児の保護者に対し、計4回の調査を行った。なお、対象者1人に対して1回の質問紙調査である。研究担当者が、調査の趣旨、目的、対象、方法、プライバシーの保護また調査拒否の自由、また調査を拒否しても一切の不利益は被らないことなどについて口頭及び書面にて説明した。保護者のうち調査に同意をした者に無記名自記式質問紙を配布した。質問紙の提出をもって、質問紙調査に協力に同意したものとし、郵送にて回収した。なお、本研究は桜美林大学研究倫理委員会の承認を得ている(2018年2月承認、承認番号17036)。

2-4. 質問紙の内容

(1) フェイスシート

母親の育児ストレスや子どもへのアタッチメントと関連のある項目を検討した結果、「3歳児健診対象児との関係」、「年齢」、「子どもとの接触時間」、「兄弟数」、「就園状況」、「母親の就労状況」、「子育てのサポート状況」の記載を求めた。

(2) 母子それぞれのスマートフォンなどのモバイル端末使用時間

(3) インターネット依存傾向

インターネット依存度テスト(Young, 1998)のうち、母親向けに1項目削除したものをを用いた。Young(1998)によって開発されたインターネット依存度テスト(Internet Addiction Test: IAT)は、独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター(2010)がライセンスを得て翻訳した質問紙で、「1. 全くない(1点)」から「5. いつもある(5点)」の5件法で回答してもらった。得点が高いほど依存の度合いが強いとされている。オリジナルは20項目であるが、本研究では「インターネットをしている時間が長くて、学校の成績や学業に支障をきたすことがありますか」の項目は子育て中の母親への質問項目には適当でないと考え、削除し19項目とした。なお、本研究のネット依存度テストにはモバイル端末に加えパソコンの使用についても含まれる。

(4) 母親の子どもへのアタッチメント

母親の子どもへのアタッチメントの評価として信頼性・妥当性のあるNagata et al. (2000)が作成した産褥期母親愛着尺度を用いた。なお、尺度名に産褥期とあるが、質問紙の内容を検討した結果、3歳児の母親も回答可能であると判断した。「中核母親愛着」11項目、「子どもへの不安」8項目の2因子構造で、合計19項目からなっている。「1. 全く当てはまらない(1点)」から「4. よくあてはまる(4点)」の4件法である。

(5) 育児ストレス

育児スレッサー尺度(吉永・眞鍋・瀬戸・上野, 2006)を育児におけるストレスを測るために使用した。「親としての効力感低下」、「育児による拘束」、「サポート不足」、「子どもの特性」、「育児知識と技術不足」の5因子構造である。各因子は5項目で、合計25項目の尺度となっている。「1. 全く感じない(1点)」から「4. いつも感じる(4点)」の4件法である。

2-5. 分析方法

以下の手順で SPSS Ver.25 を用いて、分析を行った。

- (1) 産褥期母親愛着尺度 (Nagata et al. 2000), 育児ストレス尺度 (吉永ら, 2006) の各因子の内的整合性を検証した結果, 改めて探索的因子分析を行なった。
- (2) 子どもとの接触時間 (平日, 休日), 母子それぞれのモバイル端末使用時間 (平日, 休日), インターネット依存度テスト (Young, 1998), 育児ストレス尺度 (吉永ら, 2006), 産褥期母親愛着尺度 (Nagata et al. 2000) の各因子間の相関分析を行なった。
- (3) (2) で得られた結果をもとに Amos Ver.25 を使用して共分散構造分析を行なった。

3. 結果

調査紙は 205 名に配布し 104 名から回答が得られた (回収率 50.7%)。そのうち, 各因子に欠損値が 2 つ以上あるものを除き, 母親からの回答 100 名 (有効回答率 96.1%) を分析対象とした。各因子の欠損値が 1 つのものに対しては, その因子の平均値を当てはめて欠損値補完を行った。

対象者の基本データを表 1 に示す。母親の平均年齢は 36.7 歳 ($SD4.99$) であった。「子どもとの接触時間」, 母子それぞれの「スマートフォンなどのモバイル端末使用時間」, インターネット依存度テストの得点を表 2 に示す。

産褥期母親愛着尺度 (Nagata et al. 2000) は, もともと 2 因子構造の尺度であるが, 内的整合性を検討したところ, 「中核母親愛着」因子が $\alpha = .614$ で低かった。そのため, 改めて探索的因子分析 (主因子法, プロマックス回転) を行い, 3 因子構造が適切であると判断された。結果を表 3 に記す。I 因子を「子どもへの愛情」 ($\alpha = .764$), II 因子を「子どもへの関心」 ($\alpha = .826$), III 因子を「子どもへの不安」 ($\alpha = .670$) と命名した。いずれの因子も内的整合性が高かった。累積寄与率は 45.7% であった。

育児ストレス尺度 (吉永ら, 2006) は, もともと 5 因子構造の尺度であるが, 内的整合性を検討したところ, 「子どもの特性」因子が $\alpha = .673$ で低かった。そのため, 改めて探索的因子分析 (主因子法, プロマックス回転) を行い 4 因子構造が適切であると判断された。結果を表 4 に記す。I 因子は「子育て困難感」 ($\alpha = .872$), II 因子は「サポート不足」 ($\alpha = .843$), III 因子は「育児知識と技術不足」 ($\alpha = .838$), IV 因子は「育児による拘束」 ($\alpha = .750$) と命名した。いずれの因子も内的整合性が高かった。累積寄与率は 52.6% であった。

各因子間の相関分析の結果は表 5 の通りである。育児ストレス尺度内の関連においては, 「子育て困難感」と「育児知識と技術不足」との間に有意な中等度の正の相関 ($r = .497$) が, 「子育て困難感」と「サポート不足」 ($r = .255$), 「育児による拘束」 ($r = .220$) との間に有意な弱い正の相関がみられた。育児ストレス尺度と産褥期母親愛着尺度の間の相関については, 「子育て困難感」と「子どもへの不安」との間に有意な中等度の正の相関 ($r = .677$) が, 「子育て困難感」と「子どもへの関心」 ($r = -.443$) との間に有意な

中等度の負の相関が、「子育て困難感」と「子どもへの愛情」($r=-.234$)との間に有意な弱い負の相関がみられた。

モバイル端末使用時間とインターネット依存得点との相関においては、「インターネット依存得点」と「子育て困難感」($r=.333$),「サポート不足」($r=.249$),「育児知識と技術不足」($r=.285$),「育児による拘束」($r=.264$)との間に有意な弱い正の相関がみられた。また、「インターネット依存得点」と「子どもへの不安」($r=.261$)との間に有意な弱い正の相関がみられた。

表1 対象者とその子どもの属性

母親の年齢	平均値	36.7歳 (SD4.99)	母親の就労状況: 労働	フルタイム	32名
	最年少	25歳		時短勤務	7名
	最年長	50歳		パート	8名
子どもの性別	男児	48名	母親の就労状況: 非労働	フリーランス	5名
	女児	52名		育休	10名
子どもの人数	1(人)	39名	育児支援者 (複数回答)	専業主婦	38名
	2(人)	47名		夫	91名
	3(人)	12名	その他の属性	母方祖父母	57名
	4(人)	2名		父方祖父母	27名
就園状況	幼稚園	2名		その他の家族	11名
	保育園	52名		友人知人	18名
	プリスクール	6名		保健師など 公的職員	4名
	通園なし	40名		ベビーシッターなど	5名
			その他	3名	
			なし	2名	

表2 母親の子どもとの接触時間, 母子のモバイル端末使用時間, 母親のインターネット依存得点

	最小値	最大値	平均値	標準偏差
子どもとの接触時間(平日)	2.00	24.00	14.75	7.85
子どもとの接触時間(休日)	10.00	24.00	19.99	4.92
モバイル端末親使用時間(平日)	0.00	15.00	2.22	2.12
モバイル端末親使用時間(休日)	0.00	15.00	2.40	2.14
モバイル端末子使用時間(平日)	0.00	3.00	0.51	0.68
モバイル端末子使用時間(休日)	0.00	6.00	0.81	1.10
インターネット依存得点	19.00	50.00	26.3	6.83

表3 産褥期母親愛着尺度の因子分析結果 (主因子法：プロマックス回転) N=100

	因子負荷量			共通性
	I	II	III	
I 子どもへの愛情 $\alpha = .764$				
2. 子どものそばにいと安心する	.746	.014	-.237	.662
19. 子どもの身の回りの世話が楽しい	.722	-.037	-.106	.528
1. 子どもとの関わりが楽しみである	.634	.090	-.141	.502
8. 子どものためなら何でもしてやれる気がする	.608	.026	.107	.378
7. 子どもと離れているといろいろなことが気にかかる	.605	-.084	.272	.388
18. 子どもと離れていると触れたり抱いたりしてやれないことを寂しく思う	.493	-.084	.202	.249
II 子どもへの関心 $\alpha = .826$				
4. (逆) 子どもにあまり興味が持てない	-.169	.922	.005	.756
5. 子どもに話しかけながら接している	-.190	.778	-.127	.607
6. (逆) 子どもが可愛く思えない	.054	.723	.035	.540
11. 子どものことをたまらなく愛おしいと思う	.329	.635	.148	.619
9. 子どもを見ると触れたり抱き上げたくなる	.237	.472	.038	.351
III 子どもへの不安 $\alpha = .670$				
17. 子どもに何をしてやればいいのかわからず戸惑うことがある	-.103	.017	.629	.412
15. もっと子どもにしてやれることがあるような気がする	.154	.104	.614	.359
3. これからのことを思うとうまく育てられるか心配である	.015	-.062	.608	.397
12. 子どもとどう関わって良いか分からない	-.240	-.017	.480	.323
14. 子どもが病気になるか不安である	.210	-.014	.421	.204
因子相関行列				
	因子	I	II	III
	I	-	.384	-.110
	II		-	-.347
	III			-
因子寄与		3.99	2.05	1.24
累積寄与率 (%)		25.0	37.7	45.5

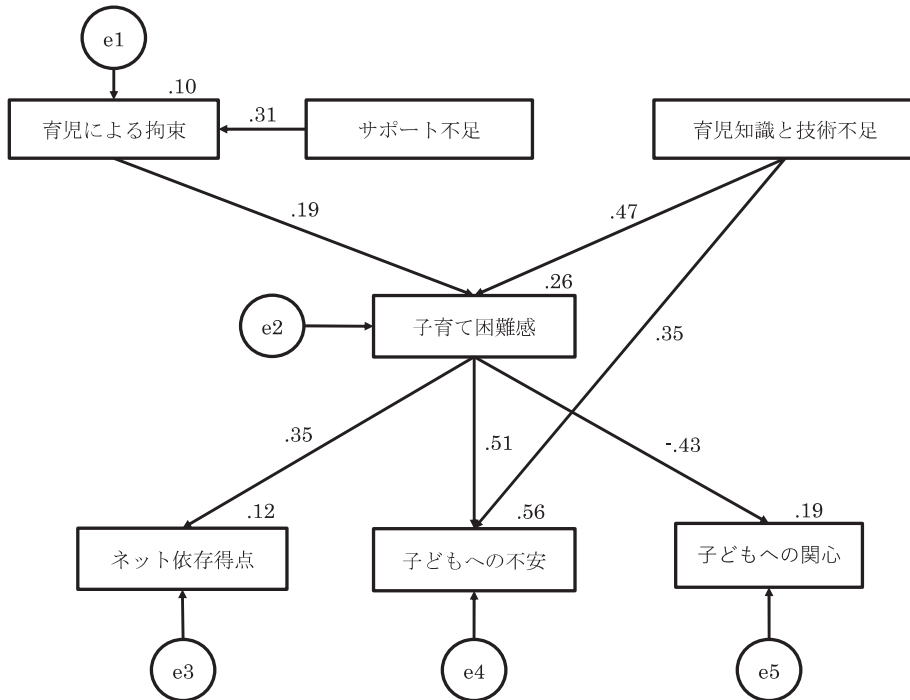
表4 育児ストレス尺度の因子分析結果 (主因子法：プロマックス回転) N=100

	因子負荷量				共通性
	I	II	III	IV	
I. 子育て困難感 $\alpha = .872$					
2. 子どもをうまく育てられない	.842	.061	-.075	-.082	.654
4. 子どもの育て方に疑問を持つ	.787	-.045	-.088	.074	.575
1. しつけ方がわからない	.756	-.139	.054	-.006	.581
3. 叱り方がわからない	.680	.042	.170	-.020	.611
5. 母親にむいていない	.654	.116	-.017	-.063	.448
17. かんしゃくを起こす	.615	-.117	.005	.120	.398
18. 機嫌が変わりやすい	.535	.088	.020	.089	.362
16. よく泣いてなだめにくい	.431	.110	.031	.031	.245
II. サポート不足 $\alpha = .843$					
11. 夫からの言葉かけが少ない	-.061	.827	.110	-.032	.673
13. 家族のまとまりがない	.094	.737	-.149	-.056	.541
14. 育児を一人でしている	-.077	.725	.040	.076	.552
12. 夫が子どもをかまわない	.117	.715	-.014	.066	.601
15. 夫や祖父母の手伝いがない	-.008	.614	.017	-.007	.375
III. 育児知識と技術不足 $\alpha = .838$					
22. 成長や発達を目安にこだわってしまう	-.101	.022	.954	.019	.835
21. 同年齢の子どもの成長や発達と比べてしまう	-.117	.023	.926	.026	.776
23. 病気なのか判断できない	.301	-.083	.575	-.115	.564
24. 受診のタイミングがつかめない	.230	-.069	.477	-.006	.374
25. 発熱などの緊急時に対処できない	.182	.078	.404	.002	.276
IV. 育児による拘束 $\alpha = .750$					
8. 自由な時間がない	-.024	-.033	.043	.951	.881
7. 趣味や仕事を制約される	.085	-.023	-.046	.802	.659
6. やりたいことを我慢する	-.015	.092	.040	.599	.407
9. 新しいことが始められない	.048	.010	-.053	.407	.177
因子相関行列					
	I	-	.235	.478	.221
	II		-	.116	.351
	III			-	.087
	IV				-
因子寄与	5.70	2.88	1.57	1.14	
累積寄与率 (%)	25.9	39.0	46.1	52.6	

表5 子どもとの接触時間、モバイル端末使用、インターネット依存得点、育児ストレスサー尺度、産褥期母親愛着尺度との相関

	子ども接触(平日)	子ども接触(休日)	モバイル端末 親使用:平日	モバイル端末 親使用:休日	モバイル端末 子使用:平日	モバイル端末 子使用:休日	ネット依存得点	子育て困難感	サポート不足	育児知識と技術不足	育児による拘束	子どもへの愛情	子どもへの関心	子どもへの不安
子ども接触:平日	-.													
子ども接触:休日	.675**													
モバイル端末親使用:平日	.297**	.118												
モバイル端末親使用:休日	.201*	.140	.781**											
モバイル端末子使用:平日	.032	.112	.120	.120										
モバイル端末子使用:休日	-.146	-.040	.111	.124	.885**									
ネット依存得点	.189	-.093	.198	.210*	-.050	-.054								
子育て困難感	-.193	-.275**	.008	-.002	-.026	.007	.333**							
サポート不足	.066	-.087	.028	-.092	.132	.113	.249*	.255*						
育児知識と技術不足	-.057	-.160	-.058	-.039	-.011	-.011	.285**	.497**	.116					
育児による拘束	-.159	-.234*	.187	-.069	-.030	.024	.264**	.220*	.316**	.106				
子どもへの愛情	.243*	.185	.118	.129	-.105	-.190	-.085	-.234*	-.202*	.039	-.363**			
子どもへの関心	.059	.133	.057	.139	-.018	.013	-.161	-.443**	-.179	-.178	-.145	.431**		
子どもへの不安	-.239*	-.263**	.112	.135	.155	.174	.261**	.677**	.041	.581**	.048	.036	-.228*	

**p<.01, *p<.05



$\chi^2=17.407$ $df = 14$, $p = .235$ GFI = .957, AGFI = .913, CFI = .978, RMSEA = .050

図1 育児ストレス、アタッチメント、インターネット依存得点のパス図

母子の「モバイル端末使用時間」については、「親の休日使用時間」が「インターネット依存得点」($r=.210$)との間に有意な弱い正の相関があるだけで、子育てに関連要因とは有意な相関がなかった。

さらに、育児ストレス、アタッチメント、インターネット依存得点の因子のそれぞれが及ぼす影響を検討するために共分散構造分析によるパス解析を行った。結果を図1に示す。育児ストレス尺度の「育児知識と技術不足」と「サポート不足」が「子育て困難感」を高め、「子育て困難感」と「育児知識と技術不足」が、産褥期母親愛着尺度の「子どもへの不安」を高め、「子育て困難感」が産褥期母親愛着尺度の「子どもへの関心」を減少させ、「インターネット依存得点」を高めているというパス図の適合度指標が、 $\chi^2=17.407$, $df = 14$, $p = .235$, GFI = .957, AGFI = .913, CFI = .978, RMSEA = .050 となり、十分な適合性があることが確認された。

4. 考察

今回の調査では、アタッチメントの3因子である「子どもへの愛情」、「子どもへの関心」、「子どもへの不安」は、モバイル端末の母子それぞれの使用時間とも相関は見られなかった。母親のモバイル端末使用時間の平均は、平日、休日ともに2.5時間ほどであり、

長時間使用しているとはいえない。子どものモバイル端末使用時間も、平日、休日ともに平均1時間未満という結果で、日本小児科医会の、乳幼児向けのメディアへの接触時間は2時間を目安に、という指針と比べても問題のある使用者が少ないという結果と考えられる。また、モバイル端末の母子それぞれの使用時間は、育児ストレスとも有意な相関がみられなかった。

本研究では、昨今の育児環境を鑑みスマートフォンに代表されるモバイル端末の普及が、母と子が触れ合う機会を妨げる要因に関連する可能性を考え、そのことがアタッチメントに影響を及ぼすのではないかと推測し調査を行った。しかし、現段階ではこの影響は見られなかった。乳幼児の母親のスマートフォンの使用率が92.4% (ベネッセ教育研究所, 2018) と9割を超えたのは最近のことであり、子育てのように長期的な影響を視野に入れた研究では直ぐに表面化し難い可能性も否めない。アタッチメントは世代間連鎖についての影響も示唆されており (数井, 2005), モバイル端末との関連について、今後もさらなる調査が必要と考えられる。

更に、共分散構造分析による因果モデルより、育児ストレス、アタッチメント、インターネット依存得点との関連において、育児知識と技術不足やサポート不足のため子育て困難感が強まると、子どもへの不安が増し、子どもへの関心が減少するという母親の子どもへのアタッチメント不足が高まり、インターネット依存傾向が強まるパス図の適合が良かった。つまり、「育児知識と技術不足」、「サポート不足」に由来する「子育て困難感」が、母親の子どもへのアタッチメント形成不全やインターネット依存傾向を導いている可能性が示唆されたと考えられる。このため、子育て困難感解消のために育児知識や技術を教えることやサポートを増やすことが有効と推測され、このような試みが、母子間の適切なアタッチメントの形成の促進や母親のインターネット依存の予防につながると考えられる。

今後の課題としては以下の2点が挙げられる。第一に、今回は関東地区の限定された地域の母親を対象としたため、サンプル数や地域を拡大した研究が必要と思われる。第二に、モバイル機器使用状況やインターネット依存の母子への影響が確認できていない部分もあるため、今後は育児ストレスやアタッチメント以外との関連を調べる必要性があると思われる。

今回、子育て困難感が母親のインターネット依存につながる可能性が示唆されたが、モバイル機器使用状況やインターネット使用の弊害についてはまだまだ不明の部分が多いため、今後の研究の進展に期待したい。

付記

本研究にご協力いただきました、関東地方のA保健所の皆様、3歳児健診受診者の保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。

文献

- ベネッセ教育総合研究(2018). 第二回乳幼児の親子のメディア活用調査 レポート [2018] Retrieved from <https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=5268> (2019年8月17日)
- Bowlby, J. (1969) *Attachment and Loss Vol.1 Attachment*, New York: Basic Books.
- Carlson, E.A., & Sroufe, L.A. (1995). Contributions of attachment theory to developmental psychopathology. In Cicchetti, D. & Cohen D.J. (Eds.), *Developmental psychopathology*. (Vol.1. pp. 581-617) New York: Wiley.
- 電通メディアイノベーションラボ・東京大学大学院情報学環学際情報学府橋元良明研究室共同研究(2018). 「0歳児からのスマホ」の時代～東大共同調査からの報告 Retrieved from <https://dentsu-ho.com/articles/6363> (2019年8月17日)
- 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター(2010). インターネット依存度テスト (Internet Addiction Test, IAT) Retrieved from http://www.kurihama-med.jp/tiar/tiar_07.html (2019年8月17日)
- 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター(2018). ネット依存 Retrieved from http://www.kurihama-med.jp/tiar/tiar_01.html (2019年8月17日)
- 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター(2018). スマホ注意報 Retrieved from http://www.kurihama-med.jp/tiar/tiar_09.html (2019年8月17日)
- 橋元 良明・大野 志郎・久保隅 綾(2018). 乳幼児期における情報機器利用の実態 東京大学大学院情報学環 情報学研究 調査研究編, 34, 213-243.
- 数井 みゆき(2005). 親世代におけるアタッチメント 数井 みゆき・遠藤 利彦(編著) アタッチメント (pp.174-208) ミネルヴァ書房
- 北川 恵(2005). アタッチメントと病理・障害 数井 みゆき・遠藤 利彦(編著) アタッチメント (pp.245-275) ミネルヴァ書房
- Main, M., & Solomon, J. (1990). Procedures for identifying as disorganized/disoriented during the Ainsworth strange situation. In M.Greenberg, D.Cicchetti, & M.Cummings (Eds.). *Attachment during the preschool years* (pp.121-160). Chicago: University of Chicago press.
- 諸富 祥彦(2016). スマホ依存の親が子どもを壊す 宝島社
- Nagata, M., Nagai, Y., Sobajima, H., Ando, T., Nishihide, Y., & Honjo, S. (2000) Maternity blues and Attachment to children in mothers of full-term normal infants. *Acta Psychiatrica Scandinavica*, 101 (3), 209-217.
- 内閣府(2017). 低年齢層の子供のインターネット利用環境実態調査 Retrieved from https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/net-jittai_child.html (2018年12月26日)
- 日本小児科医会(2013). スマホに子守りをさせないで(ポスター・リーフレット) Retrieved from http://www.jpa-web.org/dcms_media/other/smh_leaflet.pdf (2018年12月26日)
- 奥村 ゆかり・松尾 博哉(2011). ベビーマッサージが母子双方のストレス反応に及ぼす効果に関する研究 母子衛生, 51 (4), 545-556.
- 佐藤 達也・菅原 ますみ・戸田 まり・嶋 悟・北村 俊則(1994). 育児に関するストレスとその抑うつ の重症度との関連 心理学研究, 64 (6), 409-416.
- 総務省(2014). 平成26年情報通信白書 Retrieved from <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h26/html/nc143110.html> (2018年12月24日)
- 鈴木 廣子・大河原 美以・殿川 佳子・藤岡 育恵・響 江吏子(2011). 母子の愛着システム不全評価尺度の作成 (1) —2歳児における質的データの分析 東京学芸大学紀要総合教育科学系, 62, 1-14.
- 吉永 茂美・眞鍋 えみ子・瀬戸 正弘・上野 一郎(2006). 育児ストレス尺度の作成の試み 母子衛生, 47 (2), 386-396.
- Young, K. (1998) *Caught in the Net: How to Recognize the Signs of Internet Addiction and a Winning Strategy for Recovery*, New York: John Wiley and Sons.